

そもそもSDGsって？

「誰一人取り残さず」に、すべての人類がこの地球で暮らし続けていくため全世界において**2030年までに達成すべき目標**を定めたものです



ロゴ: 国連広報センター作成

上記、17個の目指すべきゴール(大目標)、そしてそれぞれのゴールにぶら下がる、169個のターゲット(小目標)から成り立っています
※ターゲットの内容は、紙面の都合上、省略しています

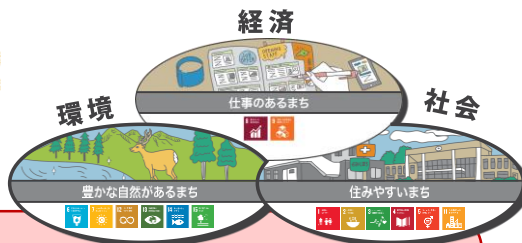
「SDGs未来都市」とは

★SDGs達成に向け優れた取組を提案した自治体に対し、内閣府が選定

SDGsを構成する「**経済**」・「**社会**」・「**環境**」の3要素を念頭に、SDGsの理念に沿いつつ、新しいまちの価値を生み出す取組を推進する都市の中から、特に「**持続可能な開発**」の実現の可能性が高い都市として、**2021年に上士幌町も選定**

★「**持続可能な開発**」とは？

将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような社会発展



「SDGs未来都市」に選定された自治体は、この先3か年の取組を具体化した「SDGs未来都市計画」を策定

上士幌町では、2021~23年度の計画が終了することから、これまでの取組状況を踏まえつつ、引き続き2024~26年度の第2期計画を今回作り上げていきます

計画の構成について

1. 将来ビジョン

- ・上士幌町が持つ特徴や、今後取り組むべき課題を踏まえつつ、SDGsの最終年である**2030年の「上士幌町のあるべき姿(将来像)」**を記載
- ・2030年のあるべき姿の実現に向けた、**優先的なSDGsのゴール・ターゲット**や取組内容の記載、**達成度合いの確実かつ定期的な計測が可能な指標(KPI)**を設定

2. 自治体SDGsの推進に資する取組

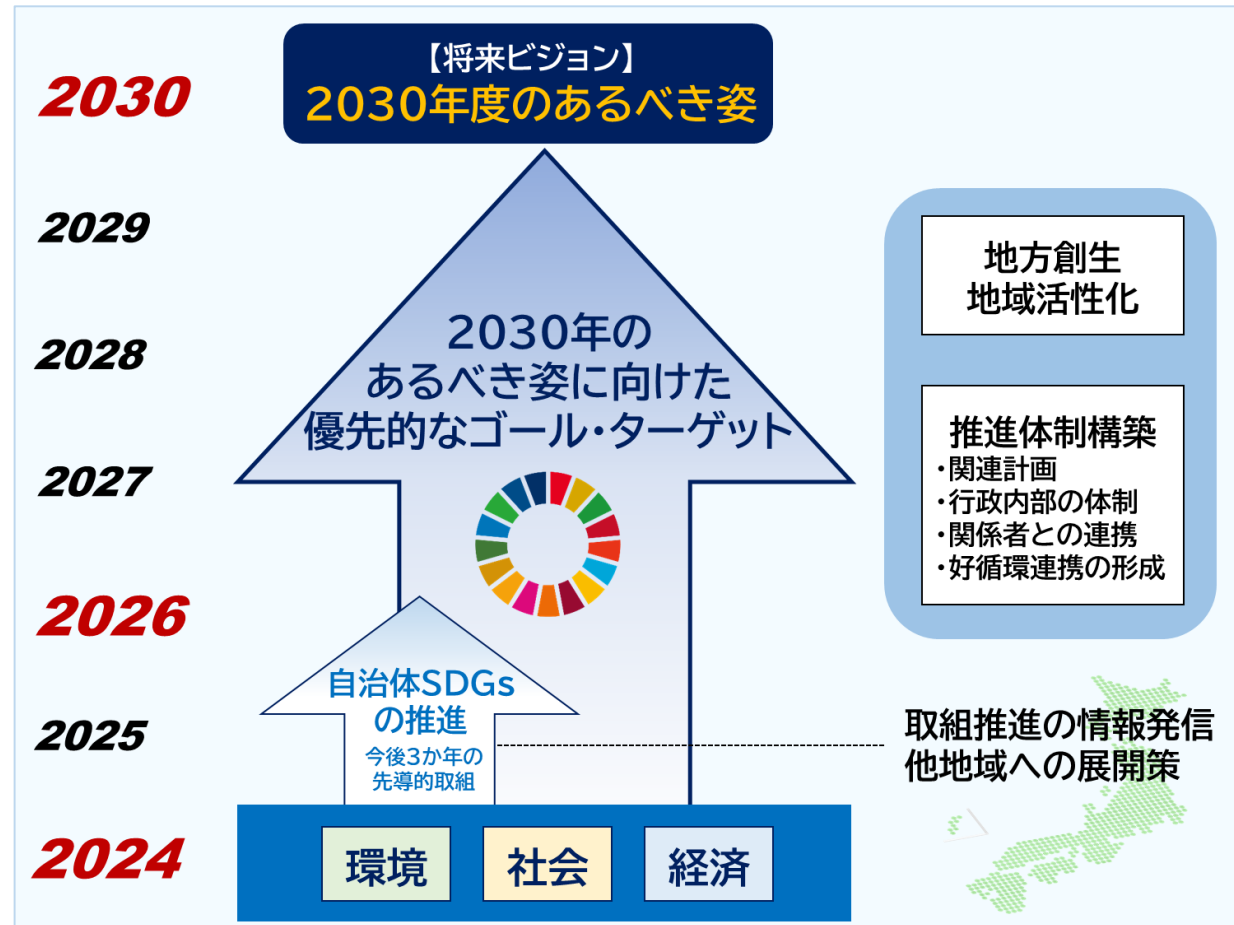
- ・2030年のあるべき姿の実現や、優先的なゴール・ターゲットの達成に向けた**今後3年間に先導的に進めていく取組**について記載
- ・上記の取組における**SDGsのゴール・ターゲットとKPI**を設定

3. 推進体制

- ・2030年のあるべき姿の達成に向けた、役場内部の推進体制や町内・町外関係者、海外との連携などについて記載

4. 地方創生・地域活性化への貢献

- ・今回のこの未来都市計画が、上士幌町の今後取り組むべき課題に対してどのように貢献するか、また国内外の他の自治体へどのように波及するかを記載





1. 将来ビジョン

地域の実態



★酪農、畑作などの農畜産業を基幹産業とする農村地域

★家畜ふん尿を活用した「資源循環型農業」と、そこから生み出されるクリーンなエネルギー(電力)を、上士幌町内で地産地消するしくみを確立

「資源循環型農業」とは？

これまで利活用されていなかった廃棄物などを用い、土壌改良やたい肥などに再利用しつつ、資源循環していく農業
本町では「家畜ふん尿」を用い、電力(環境負荷のかからないエネルギー)を作りつつ、残ったものは、牛の寝わらや、牧草地や畑にまく肥料として利活用しています

★これまでの「地方創生」における積極的取組と、まちづくり会社・地域商社の設立によるさらなる取組の推進

「地方創生」とは？

少子高齢化への対応や東京圏への人口集中の是正など、各地域がそれぞれの特徴を生かして、自立的で持続的な社会を目指すことで、日本全体の活力を上げていく施策

★これまでのSDGsを軸とした、本町のさまざまな取組に対し評価

2020年「第8回プラチナ大賞優秀賞」・「第4回ジャパンSDGsアワード」を受賞、
2021年「SDGs未来都市」・2022年「第1回脱炭素先行地域」に選定

今後取り組む課題

ゼロカーボン上士幌の実現とスマートタウンの構築

地方が持つ弱点を、通信技術・デジタル技術のフル活用で克服していく一方で町内のいち早い脱炭素(ゼロカーボン)実現に向けて注力していきます

「ゼロカーボン」とは？

温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにしていくこと。上士幌町では2050年までにCO2排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を表明

「スマートタウン」とは？

次世代高度技術を活用して、町の課題の解決や、新たな価値や魅力を創造し、人々の生活の利便性や質を高めるまちづくり

町民が「自分ごと」として取り組む環境の整備

「だれもが生涯活躍できるまち」の理念のもと、住民の皆さん一人一人が自ら考えて行動する仕掛けづくりと、「世代間交流」や「コミュニケーション」を生み出します

2030年のあるべき姿

①人類生存の基盤となる食料とエネルギーが自給されるまち

- ・基幹産業である畑作や酪農を基盤として、食料自給率を維持
- ・家畜ふん尿を資源とした資源循環型農業の推進とともに、環境へ配慮
- ・上記で生み出す電力(環境にやさしいエネルギー)の本町内での地産地消をより一層推進
- ・一般住宅・事業所への太陽光発電設備などの導入支援、役場庁舎などの省エネ化、未利用エネルギーの活用検討、森林の適切な更新・管理による健全化などの取組を推進
- ・脱炭素先行地域に選定された使命として、その他自治体などへ脱炭素の流れを起こしていけるよう、脱炭素を力強くけん引



②環境と調和したビジネス展開で強靱な地域・経済が実現するまち

- ・脱炭素に係る取組の実施により、まちの魅力や将来性を高め、企業などからのESG投資(環境や社会、管理体制などの取組要素を判断基準として投資先を選定する方法)と地域内の経済循環を創出
- ・地域商社(株)karchと連携し、道の駅運営などでの地域外貨の獲得による雇用創出や地域経済活性化の促進、①で生み出された家畜ふん尿由来エネルギーの町内供給、SDGsや脱炭素の取組と連動させた、地域の価値を体感し、学べるビジネスの展開

③だれもが生涯活躍のまちづくりによりQOL向上が実現するまち

- ・まちづくり会社(株)生涯活躍のまちかみしほろと連携した、雇用や生きがいの創出、支え合いやコミュニティ活動の活発化、健康づくりや福祉面のサポートの充実、人材育成など「だれもが生涯活躍のまち」を後押しし、住民の「QOL」を向上

「QOL」とは？ ⇒ クオリティ・オブ・ライフ:「生活の質」

- ・住民のみなさんが「自分ごと」としてSDGs及びゼロカーボンを捉え、意識醸成や行動変容につなげることを目的とした各種制度の構築

④関係人口の創出・拡大による人材還流と新たな価値が生み出されるまち

- ・シェアオフィスや企業滞在型交流施設を拠点とした、都市部企業人材の受け入れ
- ・都市部企業と地元事業者・生産者とのマッチングによる新たなビジネス展開・人材育成

⑤スマートタウンの構築が地域内外の幸せを後押しするまち

- ・情報通信、デジタル、AI、ロボット、ドローンや自動運転などの次世代高度技術を様々な分野に社会実装することによる住民の利便性向上や産業の振興
- ・スマートタウンの実現により、経済・社会・環境面の各々の取組が相乗効果を発揮し、地域全体が恩恵を受けながら具体的な取組を進めることで生きがいを創出

2030年のあるべき姿に向けた優先的なゴール・ターゲット

統合面



【2030年に向けての指標設定】

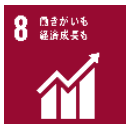
- ・人口の社会増加数
- ・目標人口

経済・社会・環境の各側面の取組とそれらをつなぐ統合的な取組によって、まちの価値や魅力・将来性を高め、**町内人口を維持**します

移住や関係人口、企業や投資をさらに呼び込むことで、持続可能なまちの実現のために必要な、**一定の人口規模や若年層人口の維持**を目指します

「社会増加」とは？
自然増減(出生・死亡)を除いた、本町への転入・転出における数値

経済面



【2030年に向けての指標設定】

- ・職業相談件数(無料職業紹介所への求人・求職相談件数)
- ・観光拠点施設(道の駅・ナイトテラス)での一人当たりの観光消費額

地域経済活性化のためには雇用創出が不可欠であり、**本町の経済活動に興味関心を持つ方を増や**します

地域外貨(町外からの資金)の獲得として、道の駅等の**観光施設における消費額を増加**させることを目指します

社会面



【2030年に向けての指標設定】

- ・SDGsポイント制度への参加者数
- ・SDGs・ゼロカーボンマスター制度取得者・団体数
- ・「かみしほろコミュニティサークル」の参加件数

地域社会の維持には、住民みなさんがSDGsや希薄化する地域コミュニティなどの**地域課題を「自分ごと」として捉えて**行動していく必要があります

SDGsや脱炭素にかかる取組の、町内での機運醸成、コミュニティや世代間交流の活発化を図るため、**新たに構築する町民参加型の各種取組について一定人数の参加**を目指します(各制度の詳細は5ページ右側参照)

環境面



【2030年に向けての指標設定】

- ・再生可能エネルギー電力契約件数
- ・再生可能エネルギー発電設備等及び省エネルギー住宅の導入件数

脱炭素先行地域における脱炭素実現への取組として、町内の**再生可能エネルギー普及・推進に注力**します

資源循環型農業の推進による町内の家畜ふん尿由来の電力小売による再生可能エネルギーの**地産地消と、再エネ・省エネ普及**を目指します

「再生可能エネルギー」とは？
石油・石炭などではない「非化石エネルギー」のうち、資源の再生が可能なエネルギー = エネルギー源として永続的に利用できると認められるもの





2.自治体SDGsの推進に資する取組

今後3か年(2026年まで)の先導的取組

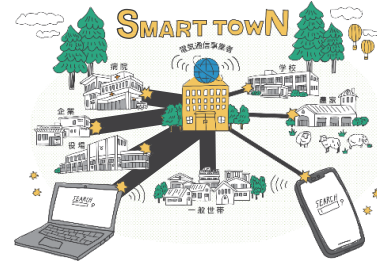
①人類生存の基盤となる食料とエネルギーが自給されるまち

【先導的取組にかかる指標設定】

- 再生可能エネルギー電力契約件数
- 再生可能エネルギー発電設備及び省エネルギー住宅の導入件数
- マイクログリッドで電力確保可能な防災拠点施設数



- 資源循環型農業の推進
- 再生可能エネルギーの地産地消
- 脱炭素の基盤づくり(太陽光導入支援、マイクログリッド等)
- 各種エネルギーの利活用検討(温泉熱・生ごみのエネルギー利活用等)



「マイクログリッド」とは？
大規模発電所に頼らない「小規模なエネルギーネットワーク」のこと
エネルギーの供給～送電～消費までを行う

②環境と調和したビジネス展開で強靱な地域・経済が実現するまち

【先導的取組にかかる指標設定】

- 本町の観光入込客数



- SDGs・脱炭素と連動した取組(ESG投資と域内循環の創出)
- 観光振興・商品開発(地域商社によるSDGs商品・ツアー造成等)



③だれもが生涯活躍のまちづくりによりQOL向上が実現するまち

【先導的取組にかかる指標設定】

- 起業・コミュニティづくりの拠点(ハレタ)への集客数



- 地域コミュニティの醸成
- 生きがいづくりのトータルサポート
- まちづくり会社との連携



④関係人口の創出・拡大による人材還流と新たな価値が生み出されるまち

【先導的取組にかかる指標】

- シェアオフィス及び企業滞在型交流施設の契約企業数



- ワーケーションパックの開発
- 様々な形のワーケーションの受け入れ
- 都市部企業とのビジネスマッチング

「ワーケーション」とは？
オフィスとは離れた場所で働きながら休暇を楽しむ過ごし方

「Ma a S」とは？
複数の交通手段やサービスに情報通信技術を掛け合わせ、利便性向上や地域課題解決に重要な手段となるもの

⑤スマートタウンの構築が地域内外の幸せを後押しするまち

【先導的取組にかかる指標設定】

- 次世代高度技術の社会実装項目



- 域内のDX(デジタル変革)の推進
- 住民向けMaaS・物流最適化(自動運転バス・ドローン配送等)
- かみしほろルールOS/かみしほろスマートPASSの構築



「かみしほろルールOS」とは？
本町における様々なサービスを次世代高度技術でつなぐ、農村地域に適したシンプルでオープンなデータ連携の基盤

「かみしほろスマートパス」とは？
本町内の各サービスを利用者がより簡単に、便利に利用できる、顔認証やマイナンバーカードなどを活用した個人認証システム

情報発信

①域内(町内)向け

- SDGs出前授業(小学校など)
- ESD(持続可能な開発のための教育)推進
- 役場職員の啓発
- 講習会やフォーラム開催



②域外(国内)向け

- 様々な媒体での発信
- 積極的な視察受け入れ&講演対応
- 関係団体との連携や協働



③海外向け

- 国際フォーラム等での世界へ向けた講演対応



他の地域への普及展開性

脱炭素先行地域の選定
スマートタウンの構築
(次世代高度技術のフル活用)

町内全域を対象とした脱炭素化
上士幌モデル
の確立による全国への横展開



3. 推進体制

本町の各種計画への反映

①上士幌町総合計画(2022~2031年度)

- 基本目標の施策分野ごとにSDGsの17ゴールを明示

②上士幌町総合戦略(2020~2024年度)

- 個別事業それぞれにSDGsの17ゴールとの関連性を紐づけ

③その他の個別計画

- 個別計画策定時に合わせSDGs理念や関連性を記載

基本目標とSDGsの関係

以下の表は、総合計画の基本目標施策分野とSDGs 17のゴールの関係を示しています。

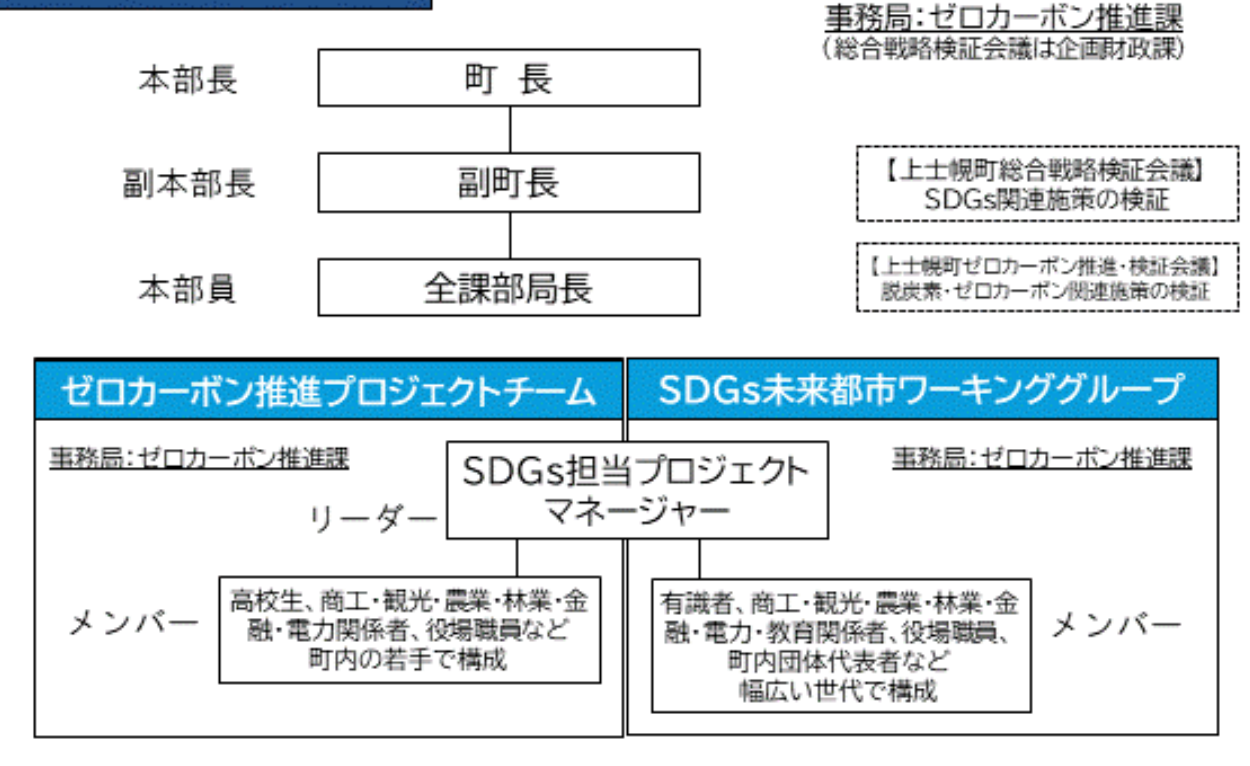
基本目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
基本目標1 活力あるまちづくり(まちづくり)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基本目標2 活力あるまちづくり(産業・観光)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基本目標3 活力あるまちづくり(環境・防災)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基本目標4 活力あるまちづくり(福祉・子育て)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基本目標5 活力あるまちづくり(文化・スポーツ)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

行政体内部の執行体制

「上士幌町SDGs推進本部」の設置

・本町の各種取組を総合的かつ効果的に推進するために設置

上士幌町SDGs推進本部



ステークホルダーとの連携

「ステークホルダー」とは？
本町の取組に対して影響する関係者(利害関係者)

①域内外の主体

- ・本町取組のハブ的役割である、まちづくり会社(生涯活躍のまちかみしほろ)及び地域商社(karch)との連携
- ・シェアオフィスなどでの域内外の人材還流(交流)による関係人口の増加
- ・地域通貨「バルーンスタンプカード」(協同組合)との連携による「SDGsポイント制度」の実施(令和6年4月開始予定)
- ・団体や組織、企業、専門家、コーディネーターなどとの連携による質の高い普及啓発

②国内の自治体

- ・SDGs未来都市、脱炭素先行地域の道内をはじめとした自治体、参画協議会の参加自治体などとの情報連携、協働の普及取組検討
- ・視察受け入れ、講演などによる、新たな交流機会の創出

③海外の主体

- ・外国人教諭などを介した国際交流、JICAとの連携
- ・国際会議などへの出席による積極的な普及啓発、情報収集



自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

①ステークホルダーである「まちづくり会社」と「地域商社」の経営基盤強化

②SDGs推進に向けた財源の確保と投資機運の醸成

- ・SDGs認証(マスター)制度の構築
- ・企業版ふるさと納税、ESG投資、域内循環の創出と、**関係人口や企業・投資などのさらなる呼び込み**

③SDGs人材の育成

- ・「SDGsポイント制度」、「SDGs・ゼロカーボンマスター制度」、「かみしほろコミュニティサークル」の構築による住民の意識醸成や行動変容、町民間の普及啓発、コミュニティや世代間交流の醸成
- ・**町民をメンバー**としたプロジェクトチームやワーキンググループの機能的な実施展開による**自発的取組の促進と新たなプレイヤーの創出**



「SDGsポイント制度」とは？
ゼロカーボンやSDGsに資する行動に対しポイント付与町民の皆さんの意識醸成や行動変容への後押し
令和6年4月開始予定



「SDGs・ゼロカーボンマスター制度」とは？
知識を取得した町民の皆さんに、SDGsの普及促進をお願いし、普及啓発スピードのアップを目指します
令和6年4月開始予定

かみしほろコミュニティサークルとは？
団体・個人など町内のあらゆる「活動」の困りごとなどを連携・相談・マッチングするシステム
令和7年度開始予定



4. 地方創生・地域活性化への貢献

他地域への横展開、地方創生・地域活性化

- ・デジタルの推進、脱炭素の実現に加え、**町政推進の基軸としてSDGsを位置づけ**ながら政策を推進
- ・地方の弱点の克服、人と投資を呼び込む施策を着実に推進し、本町と同様の小規模自治体を中心とした、**全国のモデルケース**となることを目指す

【作成・問合せ先】

上士幌町役場ゼロカーボン推進課



TEL 01564-7-7255(直通) / FAX 01564-2-4637
Eメール zerocarbon@town.kamishihoro.hokkaido.jp